

Prenanthes Blinii (Léveillé) Kitagawa, comb. nov.

Nabalus ochroleucus Maximowicz in Mél. Biol. 7: 557 (1970).

P. ochroleuca (Maximowicz) Hemsley in Journ. Linn. Soc. 23: 486 (1888),
non Rafinesque (1824).

Lactuca ochroleuca (Maximowicz) Franchet in Morot, Journ. de Bot. 9:
293 (1895).

Lactuca Blinii Léveillé in Fedde, Repert. 12: 100 (1913).

P. Maximowiczzii Kirpinischnikov in Fl. URSS 29: 269 t. 23 fig. 9 (1964),
ut nom. nov.

Nom. Jap. Kôrai-ônigana.

Distr. Ussuri, Manshuria & Korea.

(横浜国立大学)

○伊吹山の薬草とジギタリス (木村雄四郎) Yushiro KIMURA: *Digitalis purpurea* cultivated on Mt. Ibuki, Ohmi.

伊吹山は近江と美濃との国境に跨る海拔 1,377 m の亜高山で植物の種類に富み、イブキの名を冠した植物も多く之の植生については奥山春季氏の植物採集覚書に詳しい。

伊吹山の薬草については 1568 年 (永禄 11 年) 織田信長がポルトガルの宣教師の請願に応じて山中に 50 町四方の薬園を開き、西洋の薬草種子 3000 種を蒔いたと伝えら



Fig. 1. 伊吹山で発芽したジギタリス. Germination of digitalis on Mt. Ibuki, Ohmi.

れるが内外の正史に詳しい記録を見ない。

そこで私は 1931 年の夏、同志 4 名と共に伊吹山 3 合目附近にキャンプし、連日採薬を試みた際、今でも伊吹の特産でヨーロッパに普通に見られるという キバナノレンリソウ、イブキノエンドウ、ヒメウロなどを採集し確認したので信長時代の薬園の規模や薬草の種類はともあれ、恐らく上記の種類は当時西洋からもたらされたもの一部かと推測されるのである。

そのような歴史的背景もあって私は 1958 年以来 1968 年まで足かけ 11 年間、毎年夏の行事として日本大学薬学科生薬学卒論生と共に伊吹山に赴き、折柄シーズン・オフのスキー宿に合宿して専ら植生調査と各種山菜（食用野草）を試食し、傍ら日大、薬学科薬草園で採種した西洋種の薬草種子を山中に蒔いて、その生育状況を調べて来たが、とりわけ *Digitalis purpurea* Linne はさすがにヨーロッパ・アルプスの原産といわれるだけに山での発芽および生育状況もきわめて良好で、すでに見事に開花し、遂次野生化の傾向すら見られるので今後の管理方法よろしきを得れば将来そのお花畠が伊吹山の観光資源となることも期待され、ここにその由来を記録するものである。

なお、昔から名産イブキモグサは山麓柏原に江戸時代からの老舗、亀屋佐京が在るが、今では専ら越後の新井工場で生産されており、かつて牧野富太郎先生によって満山薬草香といわれた伊吹山の植物は薬草を含めて観光施設の拡充と共に年々失われつつある現状を見るとき、保護対策を確立することの急務であることを痛感するのである。

（日本大学薬学科生薬学教室）

○ヌカボの学名についての訂正 (水島正美) Masami MIZUSHIMA: A correction on the Latin name of "Nukabo".

本誌 44巻 12号 372 頁にヌカボの学名について記した。然し原 寛教授の御注意により、これに命名規約の誤用があり、訂正を要することに気付いた。

Agrostis Matsumurae Hackel ex Honda (1930) を裸名と解する必要はない。本田先生の *Monographia Poacearum Japonicarum* p. 191 には記文がないが、pp. 187-188 に検索表があるので、それを正式記相文と見なすことが出来るからである。従って *Matsumurae* なる epithet を新組合せに使うのに差支はないが、其の場合は選定基準標本を指定することが望ましい。Hackel 自身が検した標本はウィーンの自然科学博物館に保存されてある筈だが、彼自身は質問者の松村任三先生に新名を報知したに過ぎず、松村先生も亦正式発表をされなかった。従ってウィーンにある筈の標本は単に名箋に新名が記されたに過ぎないものとなるので、基準標本選定の対象からはずして差支ない。*A. Matsumurae* なる学名をヌカボに限定し、且つ正式発表をされたのは本田正次先生であるから、東大所蔵の標本中で基準標本を選定すれば良いこ